

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 32 号

急性期病院における看護師へのニーズアセスメントに基づく転倒予防教育プログラムの開発と評価

(Development and evaluation of fall prevention education program based on needs assessment for nurses in acute care hospitals)

馬場 由美子 (ばば ゆみこ)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

本論文は転倒予防に関する教育ニーズアセスメントに基づいて実施する教育プログラムを開発した先駆的な研究である。転倒予防を適切に行うには看護師に対する教育が重要とされ、本プログラムの対象は急性期病院の一般病棟における看護師である。研究 1 では、転倒や転倒損傷を減らすためのガイド (Veterans Affairs National Center for Patient Safety, 2015) を基に作成された質問紙及び病棟ラウンドによるアセスメントに基づいて教育コンテンツが選択され実施されるプログラムが開発された。研究 2 では、急性期病院の一般病棟 4 病棟を対象に非ランダム化並行群間比較試験が実施され、2 病棟で開発した教育プログラムによる介入が行われた。すべての質問紙に回答した介入群 10 人、対照群 8 人を対象に解析が行われた。介入群の知識の平均値は、アセスメントに基づき教育した項目では介入前 3.63 から介入後 4.03 へ上昇 ($p < .001$)、対照群と有意差はなかった。実施状況は、介入前 2.86 から介入後 3.36 へ上昇し ($p < .001$)、対照群より有意に 0.64 上昇した ($p < .001$)。6 か月間の転倒報告率は、介入群 3.06% から 2.83% へ減少、対照群との差はなかった ($F=4.46$ 、 $p=.06$)。病棟ラウンドでは転倒予防対策への患者の参加や移動動作評価方法が導入されていた。また研修への満足度の平均は 3.8 であった。開発した教育プログラムは、転倒予防対策の実施状況の自己評価を向上させ、転倒予防対策への患者の参加や移動動作評価方法の導入など、スタッフの行動を変化させることが明らかとなった。

本プログラムは看護師による転倒予防対策実施の推進に寄与することが示唆され、今後、社会に大きく貢献することも期待される。

よって、本論文は博士 (看護学) の学位を授与するに値するものと判定した。